

2014年10月31日

会員各位

日本農業経済学会
会長 生源寺眞一

2015年度日本農業経済学会大会のお知らせ

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

2015年度日本農業経済学会大会を下記の要領にて開催いたします。本大会では、一日目にシンポジウム、二日目に個別報告、日韓シンポジウム、特別セッションを行います。多数のご参加をお願いいたします。

[1] 日程及び会場

日程：2015年3月28日（土）・29日（日）

会場：東京農工大学農学部（府中キャンパス）

〒183-8509 東京都府中市幸町 3-5-8

<大会受付>

3月28日・29日とも 農学部本館 ロビー

<大会スケジュール>

3月28日（土） 農学部本館 講堂

農学部第1講義棟 25号教室

*講堂に入りきれない方のため、上記教室にて遠隔授業システムを使用し、シンポジウム・総会の様子の中継します。

開会・開催校挨拶	9:30 ~ 9:35
会長講演	9:35 ~ 9:50
シンポジウム	9:50 ~ 16:30
総会・学会賞表彰	16:30 ~ 17:30
懇親会 府中体育館 	18:00 ~ 20:00

3月29日（日）

個別口頭報告 農学部本館および第1講義棟 9:00 ~ 16:30（予定）

個別ポスター報告 農学部2号館 1階ホール 
(プレゼンテーションと質疑応答) (午前中を予定)

(閲覧者への説明・対応) 12:00 ~ 13:00

日韓シンポジウム 農学部本館 講堂 13:30 ~ 16:30

特別セッション 農学部第1講義室 24・25号教室 (応募数により設定)

ポスター賞授与式 農学部本館 講堂 16:30 ~ 16:40

<諸会議>

3月27日（金）

幹事会または正副会長等会議 農学部2号館多目的講義室  17:00 ~ 18:00

理事会 農学部2号館多目的講義室  18:00 ~ 20:00

3月29日(日)

農業経済学関連学会協議会 農学部2号館多目的講義室

17:00～ 19:00



[2] 参加費(当日受付)

1. 大会参加費： 4,000円(学生会員 3,000円)
2. 懇親会費： 4,000円(学生会員 2,000円)

[3] 大会に関する問い合わせ

「日本農業経済学会事務局」 ホームページ：<http://www.aesjapan.or.jp>

担当：武石 昭二三 山本 博

(連絡先) 〒153-0064 東京都目黒区下目黒3-9-13 目黒・炭やビル (一財) 農林統計協会内

電話：03-3492-2988 Fax：03-3492-2942 メールアドレス：aesj@aafs.or.jp

「2015年度日本農業経済学会大会実行委員会」

委員長：野見山 敏雄

(連絡先) 〒183-8509 東京都府中市幸町3-5-8

電話：042-367-5690 Fax：042-367-5690 メールアドレス：nomisan@cc.tuat.ac.jp

*個別報告(口頭報告・ポスター報告), 特別セッションの申し込み, 新規入会, 各種変更手続きについては, 日本農業経済学会事務局にお問い合わせください。

[4] シンポジウム(3月28日)

1. 全体テーマ「戦後農業の発展過程—日本とアジアの比較—」

座長 福井 清一(京都大学) 盛田 清秀(東北大学)

報告

1) 日本農業における農業調整問題：技術進歩・価格政策・農地政策

高橋 大輔(早稲田大学)

2) 韓国の経済成長と農業発展：稲作生産性を中心として

近藤 功庸(旭川大学)

指定討論者：品川 優(佐賀大学)

3) 中国農業の比較劣位化と農業政策の展開

伊藤 順一(京都大学)

指定討論者：池上 彰英(明治大学)

4) タイにおける輸出型農業の形成と変容

井上 荘太郎(農林水産政策研究所)

指定討論者：重富 真一(アジア経済研究所)

*各指定討論者の報告にて, 日本に対するコメントもなされる予定

2. シンポジウムの内容について

2015年度のシンポジウムでは, 日本, 韓国, 中国, タイにおける戦後農業の発展過程を検討する。第2次大戦後, アジアの中でいち早く経済発展をとげた日本において, 農業がどのような構造変化をしたかについて確認し, その過程を一つのベンチマークにしながら, 他3か国の発展過程を考察する。議論を進める上での仮説としては, アジアモンスーン地帯において農業の発展過程には共通性があるのではないかということである。

アジア諸国は, モンスーン地帯にあることで稲作が国内農業において相当程度のウェイトを占め, そして家族労働力を基盤とした小農の生産体制であるという共通性をもつ。それに加えて, 著しい人口増加, 旺盛な経済成長, 急速な都市化の進展が起こっているという共通性をもつ。これら経済・社会の変化は日本が数十年前に直面

したことであり、戦後日本農業の展開はこれらへの対応として構造調整が引き起こされてきた結果だと言える。ただしその調整は必ずしも十分なものではなかった。その過程と課題を振り返ることで、アジア諸国のこれまでとこれからの発展を考察する上で、多くの教訓を引き出せるのではないか。

もちろん日本農業の姿がアジア諸国の農業の行き先を示すと考えている訳ではない。アジア諸国において自然、資源、社会、経済条件は多様である。これらの条件が農業のあり方や発展のパスを大いに左右することは言うまでもない。もう一点気をつけなければならないことは、政策の影響である。政策は発展過程を大きく左右する。過去の政策における政治的判断が、現在の日本農業を特殊なものにしてしまった可能性も否定できない。こういった農業をめぐる外的要因や内的要因が引き起こす影響を注意深く選り分けながら、発展過程における共通性を探っていきたい。

このように各国の報告を踏まえて国際比較をしながら、最終的に「日本農業をモデル化する」ことをシンポジウムでの成果として期待している。かつて Hayami& Yamada において日本農業を含めた発展モデルが示された。しかしその後の経済発展を考慮したさらなる検討は必ずしも進められていない。農業の発展過程について、日本を比較対象にしながら、韓国、中国、タイとの共通性と異質性を論じることで、最終的に日本農業の特徴をモデルとして示すことができるのではないか。そしてこの成果をもとに、日本農業について国際的に紹介できる論点が得られること、また日本農業の今後を検討する上での新たな有用な分析視角が引き出されることを期待している。

第1報告では、わが国の農業構造調整が不完全であったことについて、技術進歩、政策の影響を踏まえながら検討する。稲作を対象に価格政策や農地政策の影響について考察する。第2報告は、韓国の経済成長と農業発展の過程を検討する。そこでは日本での議論を引き継ぎ、やはり稲作に焦点をあてて、技術進歩と農地調整の影響を中心に考察する。第3報告は、これまでの中国の農業発展過程を分析し、莫大な人口を支えるだけの穀物自給力を維持し続けることができるかという観点から、労働移動、農地転用、技術進歩等の検証を行い、また政策関与のあり方について考察する。第4報告は、中所得国へと成長したタイの農業発展過程を検討し、輸出型農業を構築できた背景と課題を明らかにする。

これらの報告では、前年度での問題意識であった「農業に関わる諸問題に対して、実証分析による批判的検討を重ねてきたことが日本農業経済学会の特徴であったが、最近はこの学会が誇るべき実証部分が手薄になっていることへの解決策を模索する」という課題を引き継ぎたい。それぞれの報告者には、数量的な分析とそこから導かれたエビデンスに基づいた議論を心掛けてもらうこととした。

ただし、そういった議論は統計的検証に耐えられるデータの存在する領域に限定されてしまうという問題が常に発生する。そこで指定討論者に、韓国、中国、タイについて、現地の実情を踏まえ、歴史的、制度的な観点を交えながら、生産や政策に関わる構造的課題の分析を示してもらうことにした。

日本農業については、あえて指定討論者を指名しないこととした。座長のイニシアティブの下で、報告者と指定討論者全員、そしてフロアの会員諸氏とともに、多角的な議論を進めて、アジア諸国との比較に基づいた日本農業のモデルを明確にすることを期待したい。

[5] 日韓シンポジウム (3月29日)

1. テーマ「農協改革の『現住所』：日韓の比較」

座長 樋口 倫生 (農林水産政策研究所)

報告

1) 韓国農協中央会事業構造改編：推進実態と争点

黄 義植 (韓国農村経済研究院)

2) 日本における3つの農協全国連合組織に関する事業の収益性と成果に関する分析：

農林中央金庫、全国共済農業協同組合連合会 (全共連)、および全国農業協同組合連合会 (全農) を対象として

万木 孝雄 (東京大学)

討論者

李 仁雨 (韓国農協経済研究所)

坂下 明彦 (北海道大学)

[6] 個別報告（口頭報告・ポスター報告：3月29日）

1. 個別報告の種類と制限

個別報告は「口頭報告」と「ポスター報告」の2つに分けられますが、両方に同じタイトルや内容で申し込むことはできません。また、異なるタイトルや内容の報告であっても、筆頭報告者は、個別報告全体で1報告に限られます。

2. 会員要件

筆頭報告者とコレスポンディング・オーサーに該当する報告者は、申し込みの段階で本学会員であり、会員番号を報告申請票に記入する必要があります。非会員の場合、個別報告の申し込み前に、本学会ホームページ（以下、学会HPという）の「入会申請フォーム」で入会手続きを済ませてください。

3. 申し込み方法

個別報告の申し込みは、口頭報告、ポスター報告ともに、学会HPの「2015年度日本農業経済学会大会個別報告申込要領」を参照の上、12月19日(金)17:00までに、3点の書類（①報告申請票、②報告要旨、③報告原稿）を電子メールで[3]に記載した学会事務局に提出してください。このうち、①報告申請票の「報告言語」欄で該当する言語（日本語または英語）を選択するとともに、①報告申請票、②報告要旨、③報告原稿に、コレスポンディング・オーサーに該当する報告者を指定してください。また、②報告要旨と③報告原稿は同一言語（日本語または英語）で記載してください。①の報告言語が日本語で、②及び③の記載言語が英語（あるいはその逆）でも結構です。③報告原稿は、上記「個別報告申込要領」に従って作成してください。

4. 申し込みの受付要件

個別報告の申し込みに当たり、上記3に定める提出物に不備があった場合は受け付けません。また、上記3に定める②報告要旨や③報告原稿については、申し込み段階で論文として完成していることが受け付けの要件となっています。この要件について厳格に審査し、分析途上の不完全な原稿や、完成原稿を装うために発表済みのものを転載した原稿などは受け付けません。なお、口頭報告からポスター報告へ（もしくはその逆の）変更を依頼することがあります。

5. 報告方法など

1) 口頭報告

- (1) 口頭報告の報告時間は25分（17分の報告と8分の質疑応答）を予定しています。ただし、報告数によって変更する場合があります。
- (2) プロジェクターを用いる場合のプレゼンテーション用ファイル（PDFファイルのみ受け付けます）は、学会HPの「2015年度日本農業経済学会大会個別報告発表要領」に従って作成し、2015年3月11日(水)17:00までに、電子メールで[3]に記載した学会事務局へ送付してください。なお、送付後のファイルの差し替えは認められません。

2) ポスター報告

- (1) ポスター報告は、プログラムで指定された時間に行う10分の報告（7分のプレゼンテーションと3分の質疑応答）に加えて、閲覧者へ説明・討論を行うことが義務づけられています。この両方を適切に行ったことをポスター賞選考委員会が確認できた場合に限り、ポスター報告を行ったものと認めます。
- (2) ポスターの作成は、学会HP「2015年度日本農業経済学会大会個別報告発表要領」の別紙1「ポスター作成要領」に従ってください。サイズはAゼロ判を厳守してください（複数枚を貼り合わせたものでも結構です）。
- (3) ポスターの内容と当日の報告を審査の上、優れた報告に対してポスター賞を授与します。ポスター賞は、40歳未満の筆頭報告者が発表する報告を対象とします。

- 3) 報告に関する詳細は、学会HPの「2015年度日本農業経済学会大会個別報告発表要領」を参照してください

い。

6. 報告論文または Research Letters への投稿

- 1) 個別報告後に投稿された原稿のうち、掲載可と判定された原稿は、和文原稿の場合「報告論文」として『農業経済研究』（以下「和文誌」という）に、英文原稿の場合「Research Letters」として『The Japanese Journal of Rural Economics』（以下「英文誌」という）に、それぞれ掲載されます。
- 2) 口頭報告とポスター報告を「報告論文」または「Research Letters」として投稿する場合は、筆頭報告者が筆頭著者となります。
- 3) 投稿原稿の様式は、和文誌及び英文誌の「投稿規程」、「投稿細則」に従い、ページ数は原則 4 ページ、上限 6 ページです。3 ページ以下の原稿は受け付けません。
- 4) 英文サマリー、キーワード、メールアドレスの記載、及びコレスポンディング・オーサーの明示が必要です。
- 5) 掲載が受理された場合は、掲載料と英文サマリーの校閲料を発行前に納入する必要があります。掲載料は 4 ページで 2 万円、5 ページで 3 万円、6 ページで 5 万円です。また、英文サマリーの校閲料は著者の実費負担とし、1,500 円程度を予定しています。

[7] 特別セッション（3月29日）

1. 特別セッションの目的

特別セッションは、研究グループによる共通テーマの下で、複数の研究報告と討論、及び会場参加者との質疑を行う研究発表の場です。座長もグループ内で定めます。

2. 会員要件

特別セッションの場合、代表者は本学会員であり、報告者は、個々の報告について、[6] 個別報告の 2 に記載した会員要件を満たす必要があります。座長、コメンテーターについては、特に制約はありません。

3. 報告時間

報告者及びコメンテーターの人数や時間配分などは代表者に任されますが、セッション全体を 1.5～3 時間に収めてください。

4. 申し込み方法

特別セッションの申し込みは、学会 HP の「2015 年度日本農業経済学会大会特別セッション申込要領」を参照の上、12月19日(金)17:00 までに、3 点の書類（①報告申請票、②報告要旨、③報告原稿）の全報告分と、④特別セッション全体申請票、⑤特別セッション全体要旨（代表者、座長、報告者、コメンテーターの氏名と所属、全体テーマ、各報告タイトルを A4 判 1 ページに明記したもの）をまとめて、電子メールで [3] に記載した学会事務局に提出してください。3 点の書類（①報告申請票、②報告要旨、③報告原稿）の内容は、[6] 個別報告の場合とまったく同様です。必要書類を受領後、「個別報告」と同じ基準で、個々の報告及び全体を審査します。なお、審査に通ったセッションでも、時間の短縮をお願いする場合があります。

5. 申し込みの受付要件

特別セッションの申し込みに当たり、上記 4 に定める提出物に不備があった場合は受け付けません。また、上記 4 に定める②報告要旨や③報告原稿については、申し込み段階で論文として完成していることが受け付けの要件となっています。この要件について厳格に審査し、分析途上の不完全な原稿や、完成原稿を装うために発表済みのものを転載した原稿などは受け付けません。

6. 料金

料金は2時間まで1万円、2時間を超えて3時間まで1.5万円です（会場使用料やアルバイト代などの実費として徴収します）。料金の支払い方法については、[3]に記載した学会事務局から代表者に通知します。

7. プロジェクターを使用する場合

プロジェクターを用いる場合のプレゼンテーション用ファイル（PDFファイルのみ受け付けます）は、学会HPの「2015年度日本農業経済学会大会個別報告発表要領」に従って作成し、2015年3月11日（水）17:00までに、電子メールで[3]に記載した学会事務局へ送付してください。なお、送付後のファイルの差し替えは認められません。

8. 報告論文または Research Letters への投稿

特別セッションの個々の報告が投稿された場合、掲載可と判定された原稿は、和文原稿の場合「報告論文」として和文誌に、英文原稿の場合「Research Letters」として英文誌に、それぞれ掲載されます。投稿要領は、[6]個別報告の6と同様です。また、審査方法も個別報告と同様です。掲載が受理された場合は、[6]個別報告の6に記載した掲載料と英文サマリー校閲料を発行前に納入する必要があります。

[8] 大会期間中の保育室設置について

1歳児以上を対象とした保育室の設置を検討しています。利用を希望される方は、[3]に記載した学会事務局宛に、利用希望日・時間帯・利用人員・年齢について、12月19日（金）までにご連絡ください。利用希望の状況がまとまった段階で、学会事務局より設置・運営方法、費用負担などについて相談させていただきます。

[9] 今後のスケジュール

今後のスケジュールは以下のとおりです。提出物の提出先は、すべて[3]に記載した学会事務局となります。

1. 個別報告（口頭報告、ポスター報告）の申し込み締切り（報告申請票、報告要旨、報告原稿の提出（電子メール））：12月19日（金）17:00
2. 特別セッションの申し込み締切り（報告申請票、報告要旨、報告原稿の3点は全報告分、加えて特別セッション全体申請票、特別セッション全体要旨の提出（電子メール））：12月19日（金）17:00
3. 個別報告「口頭報告」の座長決定（2015年2月中旬頃）
4. 学会事務局から座長予定者へ審査関係書類の送付（2015年2月中旬頃）
5. プレゼンテーション用ファイルの提出期限（電子メール）：2015年3月11日（水）17:00

[10] ホテルなどの宿泊先及び会場へのアクセスについて

1. ホテルなどの宿泊先について

東京都内をはじめ、宿泊施設は多数ありますので、ホームページなどを検索し、各自で手配してください。

2. 東京農工大学 府中キャンパスへのアクセス

◆JR 中央線の場合

「国分寺駅」下車、南口2番乗り場から「府中駅行きバス（明星学苑経由）」約10分「晴見町」バス停下車すぐ。

◆京王電鉄線の場合

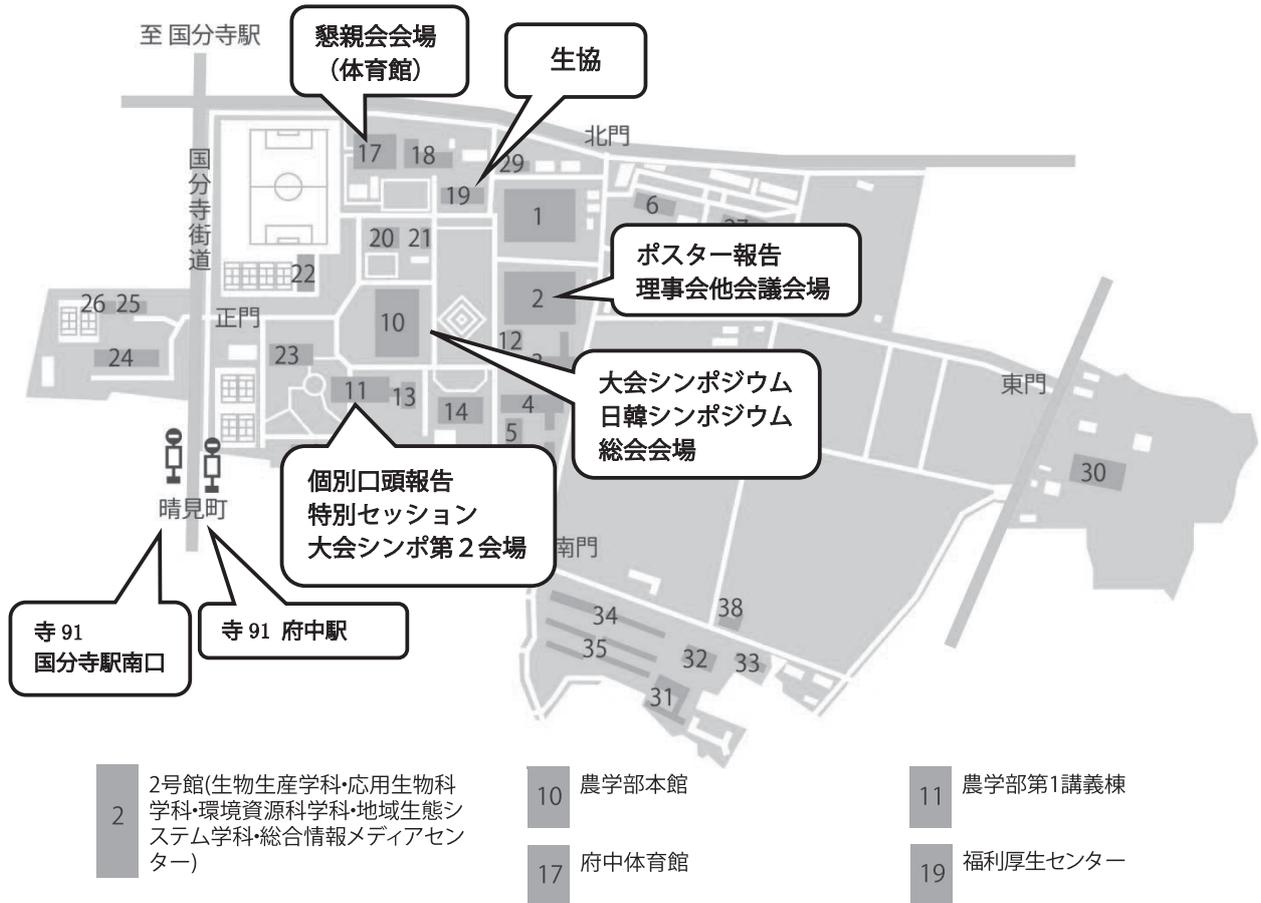
「府中駅」下車、北口バスターミナル2番乗り場から「国分寺駅南口行きバス（明星学苑経由）」約7分「晴見町」バス停下車すぐ。

◆JR 武蔵野線の場合

「北府中駅」下車、徒歩約12分。

*次頁のキャンパスマップもご参照ください。

東京農工大学 府中キャンパス 構内図



交通案内

- ・JR中央線「国分寺駅」下車、南口2番乗場から「府中駅行バス(明星学苑経由)」約10分「晴見町」バス停下車
- ・京王線「府中駅」下車、北口バスターミナル2番乗場から「国分寺駅南口行バス(明星学苑経由)」約7分「晴見町」バス停下車
- ・JR武蔵野線「北府中駅」下車、徒歩約12分

JR武蔵野線 北府中駅から会場（東京農工大学）までの経路図

